日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PRSj NEWS

PUBLIC RELATIONS SOCIETY OF JAPAN

2017年4月号

NO. 284

TOPICS

「まず知っていただくことから」

(公社)日本パブリックリレーションズ協会　理事　多羅尾智子

MESSAGE　P3

「広報PRアカデミー2017

4月より「広報PRアカデミー2017」を開講」

ATTENTION　P4

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号　六本木ヒルズノースタワー5F

電話(03)5413-6760　ファックス(03)5413-2147

URL　http://www.prsj.or.jp/

関西支部　〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F

電話(06)6344-3002　ファックス(06)6344-3005

発行人:近見 竹彦

4月号　目次

4月～5月のスケジュール		1
MESSAGE(メッセージ)	「まず知っていただくことから」	3
ATTENTION((お知らせ)	「広報PRアカデミー2017　4月より「広報PRアカデミー2017」を開講」	4
〃	「「広報PRアカデミー2017」の概要」	5
BULLETIN(活動報告)	「広報PRアカデミー2016 「デジタルメディア・スタディ」を3月16日開講」	8
〃	「広報PRアカデミー2016　今季の「広報・PRプラクティカル・トレーニング」を終了」	9
〃	「第20回PRプランナー資格認定検定試験　1次試験を3月5日(日)実施」	10
〃	「企業部会　第25回「広報ゼミ」開催報告 「企業文化×グローバルコミュニケーション」	11
〃	「第39回「PRスキル研究会」開催報告 「2016年のPRとトレンド総括、2017年のPRの展望」	11
VOICE of PR PLANNER	「広報・PRを学び続けたい」	12
REPORT(講演レポート)	「第181回定例研究会 フェイクニュースを生むネットメディアの歴史と構造」	14
PR TREND(PRトレンド(関西)	「世界遺産・吉野を訪ねてみてはいかがですか」	15
協会掲載記事	「PRSJ in Media 4月」	17

4月～5月スケジュール

第 45 回親睦ゴルフ会(PR業部会)	日　時 ：	4 月 6 日(木)
	会　場 ：	嵐山カントリークラブ
広報PRアカデミー2017 **広報・PRスタートアップ講座**	日　時 ：	4 月 11 日(火)～13 日(木)　3 日間　9:00～18:00
	会　場 ：	富士ソフトアキバプラザ
第 4 回PRプランナー朝活セミナー **＆交流会(PRプランナー部会)**	日　時 ：	4 月 26 日(水)　8:00～9:30
	会　場 ：	Supership㈱
	講　師 ：	㈱フジテレビジョン　報道局マルチデバイスニュースセンター解説編集部 ホウドウキョク　チーフプロデューサー　磯島康郎氏
	テーマ ：	「フジテレビはホウドウキョクでどこを目指すのか？」
第 182 回定例研究会	日　時 ：	4 月 27 日(木)　12:00～14:00
	会　場 ：	六本木アカデミーヒルズ 49
	講　師 ：	毎日新聞社　生活報道部　編集委員　小島正美氏
	テーマ ：	「毎日新聞ベテラン編集委員に聞く生活者向け広報のポイント ～食品、衣料、美容、健康など生活関連分野における“正しい広報” “いけない広報”」
PRプランナー資格認定検定 2 次試験	日　時 ：	5 月 14 日(日)　9:30～16:00
	会　場 ：	東京富士大学(東京) 毎日インテシオ(大阪) AQUA博多(福岡)
第 183 回定例研究会	日　時 ：	5 月 31 日(水)　12:00～14:00
	会　場 ：	AP秋葉原
	講　師 ：	テレビ東京　「ワールドビジネスサテライト」総合プロデューサー 名倉幸治氏
	テーマ ：	未定

予　告

通 常 総 会 開 催

日　時 ： 2017 年 6 月 1 日（木）
通常総会　16：30～（予定）／ 懇親パーティ　18：30～（予定）

会　場 ： 公益財団法人国際文化会館
通常総会　「岩崎小彌太記念ホール」
懇親パーティ　「樺山・松本ルーム」

4月～5月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会	**（４月度）**	日　時	：	4月　11 日（火）　12:00～14:00
	（５月度）			5月　9日（火）　12:00～14:00
		会　場	：	一般財団法人 産業人材研修センター 霞会館
教育委員会	**（４月度）**	日　時	：	4月　18 日（火）　12:00～13:30
	（５月度）			未定
		会　場	：	協会会議室
資格委員会	**（４月度）**	日　時	：	4月　27 日（木）　12:00～14:00
	（５月度）			未定
		会　場	：	協会会議室
国際・交流委員会	**（４月度）**	日　時	：	4月　26 日（水）　11:30～13:00
	（５月度）			未定
		会　場	：	協会会議室
広報委員会	**（４月度）**	日　時	：	4月　27 日（木）　16:00～18:00
	（５月度）			未定
		会　場	：	協会会議室
顕彰委員会	**（４月度）**	日　時	：	4月　20 日（木）　11:00～13:00
	（５月度）			未定
		会　場	：	協会会議室
企業部会幹事会	**（４月度）**	日　時	：	4月　5日（水）　17:00～18:00
	（５月度）			5月　17 日（水）　17:00～18:00
		会　場	：	協会会議室
ＰＲ業部会幹事会	**（４月度）**	日　時	：	4月　18 日（火）　16:00～18:00
	（５月度）			5月　16 日（火）　16:00～18:00
		会　場	：	協会会議室
ＰＲプランナー部会幹事会	**（４月度）**	日　時	：	4月　4日（火）　19:00～21:00
	（５月度）			5月　9日（火）　19:00～21:00
		会　場	：	4月度:㈱ADKアーツ　会議室 5月度:㈱電通パブリックリレーションズ　会議室

まず知っていただくことから

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
理事　多羅尾智子

この数年の協会活動は随分活発になっていると思う。定例研なども時機を得た講師が登場しているし、プランナー試験も合格者が 2,000 人を超えた。

しかし、それらの活動に積極的にコミットしてくれる人たちは非常に限られているような気がする。長年付き合ってくださっているからこそ、きめの細かい企画、運営ができると思う反面、頑張っていただいている方はいくつもの委員会を掛け持ちし、反対に顔を出さない会員の方は交代されるまで一度もお会いできない。そのお会いできない方々がどう感じられているのかは分からない。

先般の会員向けアンケートがその疑問の一端に答えてくれると思うが、たいていの場合、アンケートに答えてくれない層がどっしり居るのが常だ。

「組織というものはそんなものだ」と言われるかもしれないが、一人でも多くの方が何らかのカタチで参加しやすくするための工夫を怠らないようしてくのが、協会としての義務ではないかと思っている。

私としては広く浅く、それぞれの負担が軽い中で多様性と継続性をうまくバランスをとりながら運営できないかと思っている。そのためには協会そのものの魅力づくりが大切だろうが、その魅力をどれだけ会員の皆さんにお知らせするかが大きな課題ではないかと思っている。

協会の活動を知っていただくことによって興味を持っていただく、参加していただく、推進役になっていただく、という流れが協会内のいろんな場所にできてくれるのが理想ではないか。会員の側から言えば、入りやすさ、敷居の低さを感じていただき、闊達な意見がどんどん出てくるような環境になれば、沈黙する会員の数が少しでも減ってくれるのではないだろうか。

これは協会自体の活性化にも必ずつながるものと確信している。

今、広報委員会としては「協会ニュース」を少しずつ変えいていることにお気づきだろうか。このコラム欄を含めたいくつかの記事は長いＰＤＦデータを開かなくても直接アクセスできる。イベント情報などもリンクを貼った。これはまだ序の口、業務繁多な事務局の負担が過重にならない範囲で、あるいは会員の皆さんのご意見をいただきながら徐々に変えていく予定だ。この徐々に、というのがキモで皆さんご存知のように広報は積み重ねが大切と心得ている。

また、進んでダメなら引き返そう、というスタンスも許してもらおうと思う。考えすぎて進まない、では現代の広報のあり方からは程遠い。

さらに、この春からは広報委員会のフェイスブックも各委員会参加の門戸を開くべく、手順をどうするか議論を重ねている。広報委員会が「広報」するのではなく、皆さんのお力を借りて協会の発信力を強化し、それがそのまま協会の魅力を知っていただく一助になればと思っている。

ATTENTION

広報PRアカデミー2017

4 月より「広報PRアカデミー2017」を開講

--広報・PR実務に資する 3 コース 9 講座 21 プログラム--

教 育 委 員 会

協会では、企業・団体等における広報・ＰＲ実務者の専門能力の育成を目的として、専門研修「広報ＰＲアカデミー2017」（3 コース 9 講座 21 プログラム）を本年 4 月より開講いたします。

「広報ＰＲアカデミー」は、わが国におけるパブリックリレーションズ（ＰＲ）の健全な発展を図り、産業・経済・社会の発展に寄与することを目的として開設される広報・ＰＲの専門研修です。2009 年度の発足以降、広報・ＰＲの知識、スキルの体系的な習得を通じた人材育成を目的として、専門的知識を有し評価の高い実務専門家、企業広報マネージャー、学識者を講師として招き多様な講座、セミナーを開講しています。

2016 年度は、広報・ＰＲ実務のニーズにいっそう資することめざして、実践的な内容を重視するプログラムへと大幅な改訂を実施しました。2017 年度はこの 1 年間の実施内容を見直し、さらに充実したプログラムとなるよう改訂作業を行いました。

「広報ＰＲアカデミー2017」は、広報・ＰＲに関する基本的な知識・スキルの習得をめざす「ベーシック（基礎）ＰＲコース」、実務者の専門的な知識・スキルの向上に役立つ「アプリケーション（応用）ＰＲコース」、そしてＰＲプランナー試験に合格する実力の養成をはかる「ＰＲプランナー試験対応講座」の３コースにより構成されています。

2017 年度は新たに「アプリケーション（応用）ＰＲコース」に、課長及びチームリーダー・クラスの広報・ＰＲマネージャーの養成をはかる「新任広報・ＰＲマネージャー養成講座（仮称）」を新設、さらに「広報・ＰＲブラッシュアップ講座」を改訂、新プログラム「ベーシックＰＲツール」を追加するなど、従来に増して実務のニーズに応えるプログラムとしてスタートします。

各講座・プログラムの詳細案内と受講受付は、開講 1～2 か月前に下記Ｗｅｂサイトで行います。

日本ＰＲ協会　広報ＰＲアカデミーＷｅｂサイト

ＵＲＬ：http://event.prsj.or.jp/

なお、協会では、「広報ＰＲアカデミー2017」開講の第一弾として、4 月 11 日から 13 日までの 3 日間にわたり東京・秋葉原の「富士ソフト アキバプラザ」にて、広報・ＰＲ業務の新任者を主な対象とする「広報・ＰＲスタートアップ講座 2017」を開講します。

「広報PRアカデミー2017」の概要

「広報ＰＲアカデミー2017」は、3 コース 9 講座 21 プログラムで構成されます。各プログラムの概要は以下をご参照ください。

■ベーシックPRコース

●広報・PRスタートアップ講座

講座名	講座概要	開催時期	講座期間	定員
広報・PRスタートアップ講座	企業、PR会社等における新入社あるいは新任の広報・PR実務者等を対象に、業務に不可欠な基本的な知識、スキルを 3 日間で集中的に習得する。	2017 年 4 月 11 日～13 日	全日/3 日	60 名

●広報・PRブラッシュアップ講座

講座名	講座概要	開催時期	講座時間	定員
ベーシック・メディアリレーションズ	メディアの種別や特性、メディア関係者の考え方や対応法などメディアリレーションズに関する基本的な知識とスキルを講義と演習を通じて身に付ける。	2017 年 10 月	午後 240 分	各 40 名
ベーシック・PRプランニング	戦略的な広報・PR活動を推進する基本となるプランニングについて、その基本的な知識とスキルを講義と演習を通じて習得する。			
ベーシックPRツール	企業がステークホルダーとのコミュニケーションに利用する多様な広報ツールの種類と特性を学ぶ。また、プレスキットに同封される各種資料の作成法について実習を通じて習得、デジタル系ツールの活用についても理解する。			

■アプリケーションPRコース

●新任広報マネージャー養成講座（仮タイトル）

講座名	講座概要	開催時期	講座時間	定員
新任広報マネージャー養成講座	企業において、課長及びチーム程度のレベルの管理職に就任した新任の広報・PRジャーを対象とし、広報・PR業務のマネジメントに必要な考え方や知識を 1 日で習得する。 2017 年度より新たに開設する講座。	2017 年 10 月	全日	60 名

●プラクティカル・トレーニング

講座名	講座概要	開催時期	講座時間	定員
クライシス対応トレーニング	企業等における緊急事態発生時に際し広報・部門にとって不可欠となる危機管理について、その考え方や心構え、その対応法などの基本について、講義と演習を通じて習得する。	2017 年 6 月	午後 240 分	各 40 名
コンテンツ活用PRトレーニング	動画など効果の高いコンテンツを用いたPR手法について、講義と演習を通じて習得する。	2018 年 3 月		

●コミュニケーション・ケーススタディ

講座名	講座概要	開催時期	講座時間	定員
企業広報スタディ	企業広報の基本となるコーポレート・コミュニケーションについて、企業のケーススタディを交えて学び、経営における広報・PRの位置付けや広報戦略や計画の立案のポイントについて習得する。	2017 年 11 月	夜間 120 分	各 40 名
危機管理広報・スタディ	不祥事や事故、ネットにおける炎上や情報漏洩など、組織体における危機の原因、対応における成功や失敗について具体的なケーススタディを通じて解説し、広報・PR担当者が備えるべき心構えや対応のポイントを習得する。	2017 年 12 月		
戦略PR/マーケティング・スタディ	従来のマーケティングPRを超えて、より大きな成果を生み出す手法として関心を集める「戦略マーケティング」について、その手法を用いた取組みや考え方、計画立案等について、具体的なケーススタディの解説をとおしてそのポイントを習得する。	2018 年 1 月		
広報効果測定・スタディ	広報・PR活動がどのような成果をあげたかその効果を測定する手法や考え方等について、企業の先進事例に関するケーススタディを通じて学ぶ。	2018 年 2 月		
デジタルメディア・スタディ	企業の広報・PR活動において、デジタルメディアを効果的に活用している企業のケーススタディを通じて、これからのデジタルメディアの活用術について考える。	2018 年 3 月		

●事例セミナー

講座名	講座概要	開催時期	講座時間	定員
広報・PRプロジェクト顕彰事例セミナー	「PRアワードグランプリ」のグランプリをはじめとする優れた顕彰事例を紹介する。広報・PR事例に関心を持つ実務者一般、研究者、学生を対象に、成功したプロジェクト事例について講演と質疑を通じて、企画アイデアや推進の考え方、工夫等を学ぶ。	2018 年 2 月	夜間 150 分	110 名

●オープンセミナー

講座名	講座概要	開催時期	講座時間	定員
PRSJ 特別シンポジウム	広報・PRと関連する社会的かつタイムリーなテーマを設定し、第一人者による基調講演、パネルディスカッションなどにより構成されるセミナー。協会会員にとどまらず、広く一般にも聴講を募る。	2017 年 6 月 2018 年 3 月	夜間 150 分	120 名

■PRプランナー試験対応講座

講座名	講座概要	開催時期	講座時間/回数	定員
1 次試験対応講座	1 次試験の対象となる広報・PRの各領域に関する解説を通じて、広報・PRの基本知識を身に付ける試験対策の実践講座。	2017 年 7 月 2018 年 2 月	夜間 150 分 全 4 回	40 名
2 次試験対応講座	2 次試験の対象となる広報・PRの各領域に関する解説を通じて、広報・PRの専門的知識を身に付ける試験対策の実践講座。ネットを利用するオンデマンド方式で提供。	通年（2017 年 5 月末で改訂のため休止）	各 30 分 ～50 分	---
3 次試験対応講座	3次試験の合格を目的に、ニュースリリース、広報・PR計画の立案作成（マーケティング及びコーポレート）について、講義と演習を通じて知識とスキルを習得する試験対策の実践講座。	2017 年 6～7 月 2017 年 12 月	夜間 150 分 全 6 回	40 名

■新春PRフォーラム

講座名	講座概要	開催時期	講座時間	定員
新春PRフォーラム	著名な講師を迎え、新しい年の国内外の情勢を予測するテーマやPRに関する重要なテーマを設定し様々な角度から問題を掘り下げる。	2018 年 1 月	夕方 60～90 分	150 名

広報PRアカデミー2016

「デジタルメディア・スタディ」を3月16日開講

～2016年度「コミュニケーション・ケーススタディ講座」をすべて終了～

教　育　委　員　会

さる3月16日、協会では、「コミュニケーション・ケーススタディ講座」第5回の「デジタルメディア・スタディ『ソーシャルメディア時代のコーポレート・コミュニケーション戦略～組織コミュニケーションとデジタルメディアの効果的活用～』」を、六本木アカデミーヒルズ49にて開講いたしました。本講座をもって、今年度に予定していた「コミュニケーション・ケーススタディ講座」5講座をすべて終了しました。

本講座では、講師にデジタルメディアとコーポレート・コミュニケーションに知見の深いクロスメディア・コミュニケーションズ 代表取締役社長の雨宮和弘氏を迎えました。講座では、情報通信技術の発達を背景としたコミュニケーション環境や企業広報の変化、デジタルメディアにおけるビジュアルやメッセージ表現の動向について、企業の取組みや活用の事例を交えた講義がケーススタディとして実施されました。

また、ケーススタディで紹介された実例について、実際に携わった当事者の立場から語るゲスト講師としてオムロン株式会社より広報マネージャーを迎え、デジタルメディアを活用しながら企業理念のインターナルな浸透をめざす同社広報の取組みについて、具体的な解説が行われました。

スマホやタブレットなどの携帯型の端末が普及するとともに、FacebookやTwitter、Lineをはじめとするソーシャルメディアの利用も人々の暮らしに定着、生活者をつなぐコミュニケーションのプラットフォームとして主要な位置を占めています。一方、企業においても、ブランディングや危機管理、インターナル（社内広報）など、コーポレート・コミュニケーションの領域においてもデジタルメディアの活用について、さまざまな取組みを進められています。受講者35名の参加のもとに開講された本講座は、企業が各方面で進めているデジタルメディア活用の取組みを学ぶ、貴重な機会となりました。

協会では2017年度においても、ケーススタディを通じて背後にある広報・ＰＲの考え方や原理を理解し、実務遂行における応用能力の育成をめざす「コミュニケーション・ケーススタディ講座」の開講を今秋より予定しております。開講日程や内容については、あらためて「広報ＰＲアカデミー」のＷｅｂサイトにてご案内いたします。多くの皆さまのご参加をお待ちいたします。

広報PRアカデミー2016

今期の「広報・PRプラクティカル・トレーニング」を終了

～3 月 9 日に「動画活用トレーニング」を実施～

教　育　委　員　会

さる 3 月 9 日、協会では「広報・ＰＲプラクティカル・トレーニング」の第 2 回として、「広報・ＰＲ動画活用トレーニング～動画の効果的な活用法と iPhone を使った制作テクニック」を、六本木アカデミーヒルズ 49 にて開講しました。本トレーニングをもって、2016 年度に計画された「広報・ＰＲプラクティカル・トレーニング」全 2 回を終了いたしました。

「広報・ＰＲプラクティカル・トレーニング」は、〝広報・ＰＲ業務における新しい技法、重要だがあまり学ぶ機会のないスキルの習得〟をコンセプトとして、今年度より新たに開講した講座です。実習やワークショップを重視するトレーニングとして構成し、今年度は第 1 回として「緊急記者会見トレーニング」を実施しました。広報・ＰＲにおけるコンテンツの活用をめざした第 2 回は、コンテンツの代表ともいえる「動画」の制作と活用をテーマとしてとり上げました。

動画はコミュニケーション上の優れた特性にもかかわらず、コンテンツの制作は時間やコスト、経験やノウハウを要するプロフェッショナル・ワークであり、それらが普及と活用を妨げていました。しかしインターネットの発達、スマホの普及などにより動画の制作、流通、視聴が容易となった現在、ニュースメディアやソーシャルメディアにビデオクリップを投稿し話題となるケースも多くみられ、動画の活用について注目が高まっていることから本トレーニングが企画されました。

講師には、経営コンサルタントとして関西を中心として企業の経営、マーケティングや広告宣伝などの支援を行っているケイズクリエイト株式会社の北村真吾氏を招きました。トレーニングは、動画の特性、コミュニケーションにおける動画活用の意義などに関し、整理されわかりやすく構成された講義から始まり、さらに広範に普及している iPhone や iPad を実際に用いた動画制作の実習が行われました。

実習では、まず北村講師よりは撮影におけるポイントや注意事項が解説され、各自が持参した iPhone を使ってグループごとにメンバーを被写体とした動画を撮影、さらに、ＰＲコンテンツとして活用できるよう、編集用アプリ「iMovie」を用いて編集実習が進められました。懇切丁寧な演習指導により、受講者は iPhone 等による動画コンテンツの制作法を的確に習得できたようでした。また、北村講師は、広報担当者に対する経営者や経済誌編集長の期待、新技術の導入による動画活用の可能性についても触れるなど、これからの広報・ＰＲ活動に向けたヒントに溢れる研修となりました。

協会では 2017 年度も、「広報・ＰＲプラクティカル・トレーニング」の開講を予定しております。詳細については、「広報ＰＲアカデミー」の Web サイトにてご案内いたします。

第 20 回PRプランナー資格認定検定試験

1 次試験を 3 月 5 日(日)東京・大阪・福岡で実施 529 名の受験者が挑戦し、419 名が合格

資　格　委　員　会

３月５日（日）に（東京：東京富士大学、大阪：毎日インテシオ、福岡：ＡＱＵＡ博多）で行われた第 15 回ＰＲプランナー資格認定検定試験 1 次試験では、587 名の受験申込があり、そのうち 529 名（出席率 90.1%）が受験、合格者は 417 名（合格率 78.8%）となりました。

2007 年より実施しているＰＲプランナー資格認定検定試験では、今回の第 20 回 1 次試験までの累計で、受験申込者は 9,601 名、受験者は 8,804 名、1 次試験合格者は 6,592 名、合格率は 74.9%となりました。

第 19 回 1 次試験に引き続き、第 20 回 1 次試験も、受験予約者、申込者、受験者、合格者ともに、第 1 回を除き過去最大を更新しました。

ご協力いただきました関係者の皆様、大変ありがとうございました。

東京会場：東京富士大学

なお、今回の受験者はおよび合格者の受験者プロフィールは次の通りです。

＜第 20 回 1 次試験　業種別／年代別合格率＞

		ＰＲ業/ＰＲ関連業	一般企業(広報ＰＲ関連)	一般企業(その他)	各種団体	教育機関	自治体	学生	その他	全体
男性	受験者	56 名	63 名	29 名	7 名	4 名	6 名	32 名	12 名	209 名
	合格者	44 名	57 名	22 名	3 名	4 名	5 名	20 名	9 名	164 名
女性	受験者	64 名	137 名	26 名	8 名	3 名	3 名	54 名	25 名	320 名
	合格者	50 名	125 名	20 名	7 名	2 名	2 名	25 名	22 名	253 名
全体	受験者(全体比)	120 名(22.7%)	200 名(37.8%)	55 名(10.4%)	15 名(2.8%)	7 名(1.3%)	9 名(1.7%)	86 名(16.3%)	37 名(7.0%)	529 名(100.0%)
	合格者(全体比)	94 名(22.5%)	182 名(43.6%)	42 名(10.1%)	10 名(2.4%)	6 名(1.4%)	7 名(1.7%)	45 名(10.8%)	31 名(7.4%)	417 名(100.0%)
	合格率	**78.3%**	**91.0%**	**76.4%**	**66.7%**	**85.7%**	**77.8%**	**52.3%**	**83.8%**	**78.8%**

		20 代	30 代	40 代以上	全体
男性	受験者	84 名	65 名	60 名	209 名
	合格者	61 名	49 名	54 名	164 名
女性	受験者	150 名	112 名	58 名	320 名
	合格者	104 名	104 名	45 名	253 名
全体	受験者(全体比)	234 名(44.2%)	177 名(33.5%)	118 名(22.3%)	529 名(100.0%)
	合格者(全体比)	165 名(39.6%)	153 名(36.7%)	99 名(23.7%)	417 名(100.0%)
	合格率	**70.5%**	**86.4%**	**83.9%**	**78.8%**

受験者	合格者	合格率
529 名	417 名	78.8%

※第 1 回～20 回の累計については、資格制度Ｗｅｂサイトより、

資格認定制度について＞過去の合格率（1 次試験）

（http://pr-shikaku.prsj.or.jp/about/pass_1st_exam）をご参照ください。

（事務局・宮松）

会 員 限 定

企業部会　第 25 回「広報ゼミ」開催報告
「企業文化×グローバルコミュニケーション」

企 業 部 会

企業部会の「広報ゼミ」は、広報部門の共通課題やニーズに基づいてテーマを設定し、会員相互で意見交換を行うゼミナール形式の勉強会で、第 25 回は 2 月 8 日　16：00～日本コカ・コーラ㈱（東京都渋谷区）で、「企業文化×グローバルコミュニケーション」をテーマに行いました。
参加者は 45 名でした。

第 39 回「ＰＲスキル研究会」開催報告
「2016 年のPRとトレンド総括、2017 年のPRの展望」

Ｐ Ｒ 業 部 会

第 39 回ＰＲスキル研究会は、3 月 14 日（火）に㈱オズマピーアール　プレゼンルームにおいて㈱宣伝会議 「広報会議」編集長　森下郁恵氏を講師にお迎えし、ＰＲ業部会員 34 名の参加者に向けて「2016 年のＰＲとトレンド総括、2017 年のＰＲの展望」をテーマにお話しいただきました。

広報・PRを学び続けたい

生命保険会社勤務
増淵弘樹

はじめまして。生命保険会社に勤めております増淵弘樹と申します。
勤務先では広報部門を経て、現在は営業支援部門に在籍しています。

私の広報・ＰＲとの出会いは大学時代までさかのぼります。

当時、亀井昭宏教授の指導のもと、広告を中心としたマーケティング・コミュニケーションを研究しておりましたが、卒業論文で企業のレピュテーションマネジメントについて取り扱ったことをきっかけに、企業の広報・ＰＲ活動に興味を持ち始めました。

大学卒業後、広報・ＰＲの実務には 4 年ほど携わりましたが、かねてより広報・ＰＲを体系的に学びたいと考えていた折にＰＲプランナー資格認定制度の存在を知り、受験しました。
おそらく、ＰＲプランナーの試験勉強をしたことのある方は経験された方もいらっしゃるかと思いますが、1 次試験や 2 次試験の勉強を進めていくなかで、それまで自分が身につけていた知識に少なからず偏りがあったことに気づかされました。

ＰＲプランナーの試験勉強を振り返ると、私が大学時代に学んでいた知識と就職後の実務経験がうまく結びついたことがとても嬉しかったですし、何より自身の成長につながった実感があり、これまで経験したどの資格よりも学び甲斐がありました。

使用していた公式テキスト（1 次試験対応テキスト、2 次・3 次試験対応テキスト、過去問題集）は、試験対策はもちろんのこと、広報・ＰＲの実務で課題に直面したときに解決の糸口を探ることにも役立つ優れた参考書でした。
広報部門を離れた今でも、これらの参考書をときどき読み返しては自身の知識を再確認しています。

ＰＲプランナーの資格取得を機に、当協会が主催する様々なセミナーに参加したり、ＰＲプランナーの有資格者の有志で運営しております「ＰＲプランナー部会」の幹事として活動したりするようになりました。
ＰＲプランナー部会の幹事としては、ＰＲプランナー資格認定制度の認知が向上することによって、2,000 名を超える有資格者の広報部門における重要性が少しでも高められるような活動ができたらと考えております。

また、セミナーを通じて近年のカンヌライオンズのＰＲ部門の受賞作品を見ていると、単なるパブリシティにとどまらず、人々の認識を変化させ、行動を変化させている企業の広報・ＰＲ活動が高い評価を受けており、広報・ＰＲがカバーしている領域が実はとても広いことが分かります。

“広報・ＰＲができることはもっともっとあるんだ”という、この領域の広さに私は大きな魅力を感じており、いつかまた、広報・ＰＲの実務に携わる日が来ることを信じて、これからも広報・ＰＲの様々な好事例や理論を学び続けたいと思っています。

会 員 限 定

第181回定例研究会

フェイクニュースを生むネットメディアの歴史と構造

～ネット時代におけるジャーナリズムとメディアリテラシーを考える～

講師：ジャーナリスト
法政大学 社会学部メディア社会学科
准教授
藤代裕之氏

第 181 回定例研究会（3 月度）は、3 月 15 日（水）12：00～六本木アカデミーヒルズ 49 で開催しました。

講師は法政大学 社会学部 准教授 藤代裕之氏。テーマは「フェイクニュースを生むネットメディアの歴史と構造 ～ネット時代におけるジャーナリズムとメディアリテラシーを考える～」。

参加者は 38 名でした。

＜コラム関西の風＞

世界遺産･吉野を訪ねてみてはいかがですか

近畿日本鉄道株式会社
広報部長
原　　恭

いよいよ「桜」の季節の到来です。近鉄沿線の吉野山が１年で最も賑わうシーズンです。

吉野の歴史は古く、飛鳥時代に修験道の開祖とされる役行者が、大峰山系で修行を重ね、そこに金剛蔵王大権現を見出し、金峯山寺を創建しました。それ以来、山岳信仰の聖地として、多くの参詣者を集めてきました。2004 年には吉野・熊野・高野とその参詣道が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されました。

吉野山の尾根筋には銅の鳥居・中千本を経て上千本方面への参道があり、多くの店や旅館が立ち並んでいます。この地で有名なのは「柿の葉すし」です。お店により特徴があり、吉野によく訪れる方はそれぞれお気に入りのお店を持っているようです。

桜の吉野山

吉野山の中心で威容を誇っているのは金峯山寺蔵王堂。ご本尊は金剛蔵王大権現で、今年も４月１日から５月７日まで特別ご開帳を行っています。

ここから先は、多くの塔頭や神社があります。一目千本で知られる吉水神社は後醍醐天皇の南朝の皇居跡にあり、義経と静御前が弁慶とともに隠れ住まわれていた場所としても知られ、豊臣秀吉が南朝を偲んで盛大な花見を行ったときの本陣でもありました。さらに坂を登って進むと吉野水分神社、奥の千本の金峯神社と世界遺産が続きます。

桜の季節には多くの観光客が訪れる吉野山ですが、桜が終わると新緑に囲まれ、夏には紫陽花、森林浴、秋には紅葉、冬には静寂で荘厳な雰囲気を味わうことができます。

ご紹介いたしましたように、吉野は素晴らしい自然だけでなく、歴史・文化とともに信仰が伝えられた悠久の地です。是非、一度足をお運びください。

吉野に向かう『青の交響曲（シンフォニー）』

旅のスタートは、日本一の高さを誇る高さ 300mの超高層複合ビル「あべのハルカス」の足元に位置する大阪阿部野橋駅です。ここから昨秋デビューした観光特急「青の交響曲（シンフォニー）」に乗って、吉野に向かいましょう。

3両編成の車両は定員わずか65名で、車内デザインは、旅のときめきを高める“非日常感”がテーマです。シートやカーペットなど細部まで凝らされたこだわりがあります。

ラウンジ車両では、ゆったりとしたソファーでおくつろぎいただくことができ、バーカウンターで贅沢なスイーツメニュー、地酒や地元ワイナリーのワインもご用意しています。旅への期待で、気持ちが高揚すること間違いなしです。

『青の交響曲』車内で販売している
『季節のオリジナルケーキセット』（春季限定発売）

皆さま、是非とも「青の交響曲」に乗って、世界遺産・吉野まで上質な大人旅にお出かけください。

（なお、「青の交響曲」は運休する日があります。また、4月3日～21日まで特別ダイヤで運行いたしますので、あらかじめ近鉄ホームページで運転日および運転時刻をご確認ください。）

PRSJ in Media

● 3月1日（水）　『月刊広報会議』4月号

『月刊広報会議』4 月号における当協会の連載コラムで、国際・交流会委員会主催の異文化研究会が実施したイラン大使館訪問が掲載されました。コラムでは、日本とイランの両国間の交流を期待するイラン大使の挨拶、日本とイランの地理、歴史的な協力関係について講演が行われたこと、また講演後の交流パーティの開催の模様などが紹介されています。

● 3月1日（水）　『月刊事業構想』4月号

『月刊事業構想』4 月号のインタビュー記事「小池百合子東京都知事が目指す東京大改革と日本の針路」において、「2016 年度日本ＰＲ大賞」の「パーソン・オブ・ザ・イヤー」の受賞、パブリックリレーションズの重要性に関するコメントが紹介されています。

● 2月28日（火）　『サンデー毎日』3月12日号

『サンデー毎日』3 月 12 日号のフォトコラム「月刊くまモン」で、「2016 年度日本ＰＲ大賞」の「パーソン・オブ・ザ・イヤー」を受賞した小池百合子東京都知事と熊本県のマスコットキャラクターであるくまモンが並ぶ受賞記念写真が掲載されました。

編集担当から

会員のみなさんの情報をお寄せください！！

本誌では会員の動向・消息や、会員から会員へのお知らせなどを積極的に掲載いたします。ビジネスに直結する情報に限らず、会員交流に関するものでも結構ですので是非ご一報ください。

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思いますので、
よろしくお願い致します。

広報委員会
Ｅメール　mail@prsj.or.jp
ＦＡＸ　03－5413-2147

※　禁転載